

九州大学 大型計算機センターニュース

No. 51

1973.2.12

福岡市東区大字箱崎
九州大学大型計算機センター
共同利用掛(TEL.092-64-1101)
内線 2256

目 次

- ◇実行を指示するマクロのパラメータ変更のお知らせ..... 1
- ◇SSL ALGOLのVersion upについて..... 2
- ◇利用の手引訂正..... 4

◇実行を指示するマクロのパラメータ変更のお知らせ

実行を指示するための制御文

\$GO, \$RUN, \$LIEDRUN, \$PLIBRUN

の中のパラメータで **TIME=n**と**LP=n**が 2月19日より削除され、それぞれ次の様になります。

命 令	オ ペ ラ ン ド
\$GO	[EBNAME=実行形式プログラム名] [, STARTPROGRAM=実行開始エレメント名] [, ERR=n] [, DATA=データ名] [, MACROSTEP=n] [, OUTPUT=REMOTE]
\$RUN	[EBNAME=実行形式プログラム名] [, FILENAME=専用ファイル名] [, ERR=n] [, DATA=データ名] [, MACROSTEP=n] [, OUTPUT=REMOTE]
\$LIEDRUN	[NOLIST] [, LMAP] [, EBNAME=実行形式プログラム名] [, STARTPROGRAM=実行開始エレメント名] [, ERR=n] [, DATA=データ名] [, MACROSTEP=n] [, OUTPUT=REMOTE]

命 令	オ ペ ラ ン ド
\$PLIBRUN	[NOLIST] [, LMAP] [, EBNAME=実行形式プログラム名] [, STARTPROGRAM=実行開始エレメント名] [, ERR=n] [, DATA=データ名] [, MACROSTEP=n] [, OUTPUT=REMOTE] [, FILENAME=専用ファイル名]

◇SSL ALGOLのVersion up について

現在使用中のSSLは

SSL.F-V4.L3 (FORTRAN)

SSL.A-V3.L11 (ALGOL)

ですが、ALGOLがVersion up され、2月19日よりSSL.A-V4.L1となります。Version up に伴ない追加、修正される項目は以下のとおりです。

(1) SSL.A-V4.L1で追加登録された項目

分類コード	呼 び 出 し 名		プ ロ グ ラ ム 名
	単 精 度	倍 精 度	
B/006	ERFA	ERFB	誤差関数 誤差
B/007	ERFCA	ERFCB	誤差関数 余誤差
B/028	HERMIA	HERMIB	エルミートの多項式
B/029	LAGUEA	LAGUEB	ラゲールの多項式
B/030	JACBIA	JACBIB	ヤコビの多項式
B/031	QKKEEA	QKKEEB	完全楕円積分第1種, 第2種 2
B/032	THETAA	THETAB	楕円 ϕ (テータ)関数
B/033	EJABIA	EJABIB	ヤコビのE関数
C/065	SIMP2A	SIMP2B	1次元有限区間積分(不等間隔離散点入力) シンプソン $\frac{1}{3}$ 則
C/066	SIMPFA	SIMPFB	1次元半無限区間積分(関数入力) "
C/067	MSIMPA	MSIMPB	2次元有限区間積分(") "
C/068	MGAUSA	MGAUSB	" (") ガウス積分
D/007	CJARTA	CJARTB	複素係数代数方程式 ヤラットモディファイ法
D/008	CTRNCA	CTRNCB	複素超越方程式

分類コード	呼 び 出 し 名		プ ロ グ ラ ム 名
	単 精 度	倍 精 度	
D/009	NONLEA	NONLEB	非線型連立方程式
E/007	LA2QRA	LA2QRB	連立一次方程式・最小2乗解
G/024	CHSQRA	CHSQRB	複素行列の固有値・固有ベクトル QR法
G/026	HMTQRA	HMTQRB	複素共役行列の固有値・固有ベクトル QR法
G/027	GEIGNA	GEIGNB	一般固有値・固有ベクトル QR法
I/008	CHBAPA	CHBAPB	チェビシエフ近似による有理関数
I/009	CHBCFA	CHBCFB	チェビシエフ近似による多項式
I/010	CONFRA	CONFRB	連分数による有理関数近似
Z/010	DAVIDA	DAVIDB	多変数関数の極小化

(2) SSL . A-V4 . L1で修正された項目

分類コード	呼 び 出 し 名		修 正 内 容
	単 精 度	倍 精 度	
D/002	FERRAA	FERRAB	一部解の求まりにくい所があったが、修正し精度を向上
G/008	MDETA	MDETB	スイープアウト法のゼロ判定に誤りがあったのを訂正
G/009	MINVA	MINVB	演算速度の向上
I/007	SPLINA	SPLINB	精度の向上
J/003	HYPDEA	HYPDEB	パラメータチェックの修正 パラメータMが正の場合、計算を行っていたのを使用方法解説書通り $M > 4$ とした。($M \leq 4$ のときはこのプログラムでは無意味)
Z/007	POISNA	—	パラメータチェックの修正 ポアソン乱数の平均値としてのAMの値のチェック $AM \leq 10$ の追加

なお、現在SSL関係の最新マニュアルは、下記のとおりです。

- FACOM 230/60 SSL使用方法解説書FORTRAN編第7版(60301001-7)
- FACOM 230/60 SSL使用方法解説書ALGOL編 第5版(60301002-5)

◇ 利用の手引訂正

基本編 2-11 頁, 2-12 頁, 制御文編 6-1 頁, 6-2 頁, 6-3 頁, 1.3-1 頁

\$GO, \$LIEDRUN, \$RUN, \$PLIBRUN のオペランドから LP=n, TIME=n を, また, パラメータの説明から LP=n と TIME=n を削除して下さい。

基本編 3-12 頁, 制御文編 10-1 頁

上 12 行めと 13 行めを次のように訂正して下さい。

i : 識別番号の初期値 (5 桁以内の数字)

j : 識別番号のきざみ (5 桁以内の数字)

下 7 行めと下 5 行めにおいて

//// □ 1, 2, ID='ABC', 0, 10'

//// □ 0, 1, ID='XYZ', 0, 100' の例でコンマ(,)の後に空白があ

るようになりますが, 空白は必要ありません。

空白が必要なときは空白記号(□)を必ず印字していますので間違いのないようにして下さい。

これは, 広報, センターニュース, 利用の手引の他の編についても同様です。

頁	行	正	誤
1-7	下 5	1.3 補助記憶用ファイル	3 補助記憶用ファイル
3-1	下 3	3. 大括弧 [] で	3. 大括弧 [] で
3-2	上 3	EDIT DDOLD0, DDOLD10(x, y)	EDIT DDOLD0, DDOLD10(X, Y)
3-5		下6行めと7行めの間に次の文を挿入する。 \$FD CHANGE-SYSIN, *	
3-6		上16行めと17行めの間に次の文を挿入する。 \$FD CHANGE-SYSIN, *	
3-7	下 4	RENAME DDOLD0(olddname=newname)	RENAME DDOLD0(newname=olddname)
3-12	上 3		
	上11 下 9	\$QJOB 7001D01087, ANNE, B,	\$QJOB 7001D01087, ANNE, X,
3-15	上10	\$FD UPDATE-SYSIN, *	\$FD UPOATE-SYSIN, *
3-20	下 2	..., FILENAME=qu, eb, susan, 00100,	..., FILENAME=ou, eb, susan, 0010),
4-1	上 2	ライブラリ用ファイル処理のためのジョブ制御マクロには	ライブラリ用ファイル処理のためのジョブ制御マクには
4-8	下 7	ファイル定義名で示されるファイル内の()内で	ファイル定義名で示されるファイル内の(=)内で
4-24	上14	QU.EB.FUKUDA.00570という	QU.DT.MATSUDA.00237という
4-25	上 2	WORKTRACK=n	WORKTRCK=n
4-26	下 8	\$CHANGE FILENAME=....., /	\$CHANGE FILENAME=.....,
5-12	下 4	\$F.MT ..., MTVOLNO=QMU001,	\$F.MT ..., VOLNO=QMU0001,
5-13	下 4	\$A.MT ..., MTVOLNO=QMU003,	\$A.MT ..., VOLNO=QMU0003,